

どうなる 自治会 のみなさま

日吉台地区とともに、富里市に成長をもたらした自治会。誕生から30数年経過をしたが、少子高齢化も進む中で、現在も成長を成し遂げているといえるのだろうか。自治会が、安心・安全な、そして更なる成長をし続ける事が、富里市の成長となるのです。

だから いがらし博文 なんです！

思いと覚悟

ひろふみ

いがらし博文は、富里市職員として47歳のときに、「改革」と「実感ある政策」の出来る政治家を目指し退職。その後、秘書として3年間経験。だから、「思い」が違います。「覚悟」が違います。

経 験

ひろふみ

いがらし博文は、自治会において、道路・排水・開発行為・税等をはじめ、富里インターチェンジ周辺の土地区画整理事業・国道409号4車線化・都市計画・農業等に携わる。そして、自治会の隅々まで何度も歩き、変化を見続けてきている。誰よりも知り尽くしているからこそ、地区の声を即座に受け止め、自治会の成長に向け、力が発揮できるのです。

必ず実行！ その1 集中浄化槽

市内23箇所ある自主管理の集中浄化槽。既に耐用年数30年(日本下水道協会マニュアル)を経過したのが19箇所。場外下水道への接続の議論も数年が経過をしたが、果たして進捗が図られているのだろうか。一部では、下水道の認可取得に至るも、工事の見通しがたっていないのも現実ではないのか。また、下水道の接続が不可能な自治会はどうなるのだろうか。その一方で刻々と老朽化が進んでおり、もし機能停止に陥ったら、市民の生活は、負担はどうなるのだろうか。万一に備えた暫定計画(施設の移管・補助金の導入)と、恒久計画(下水道施設への接続)の段階的対応により、市民の負担軽減と生活、自治会の公平性を守るべき。

必ず実行！ その2 防 災

東日本巨大地震の経験で再認識した「災害は、正確で且つスピーディな情報の伝達」。いまの富里市の防災無線は機能を果たしたのか。各戸へ防災無線を設置し、情報伝達の徹底化を図り、市民の安全を守るべき。

必ず実行！ その3 バスの拡充

少子高齢化が進む中で、自家用車の運転が出来なくなったなら…循環バスの駅乗り入れとスクールバスの運行により解消すべき。「駅がない」のではなく「駅がなくとも」といえる交通体系の拡充を図るべき。

必ず実行！ その4 少子高齢化

少子高齢化に関する新規事業者に対し、運転資金補助金を導入する事で、民間の参画の機会の創出と、行政とのタイアップの充実を図るべき。



充電完了!
ちから みなぎ
力が漲る50歳

いがらし博文

